

ウェブ会議システムを活用して行う複数施設連携行事

(担当：こども家庭部 子育て支援課 南田中児童館)

事業の背景・目的

・練馬区では、複数児童館の利用者が集まり、ドッジボールや集団遊び等を通じた交流を目的とした「連合行事」を毎年行ってきた。しかし、猛暑や感染症等、環境が年々変化し、ここ数年は利用者が一同に会する連合行事を実施できない状況が続いていた。自然環境に左右されにくく、なおかつ交流という目的をぶらすことなく開催できる行事として、今回、オンラインを活用した連携行事を計画、実施した。

・従来の「連合行事」は、主に児童館と児童館内学童クラブ児童を対象としていた。今回、児童館を中心に練馬区内にある様々な放課後の施設（校内学童クラブ、単独学童クラブ（放課後児童クラブ）、ねりっこひろば（小学校を利用した練馬型放課後児童対策事業）、地区区民館等）ですぐす児童も参加できる内容にすることで、児童館利用者にとどまらず練馬区の児童ならだれでも楽しめる行事を目指した。

事業の概要

【事業の実施方法】

・各施設で、「ペットボトルキャップつみ」「こまビンゴ」等全 11 種類の種目に挑戦した。最終的にはウェブ会議システムを利用し、各種目各館 2 名ずつの代表選手による決勝戦を行った。また、決勝戦への参加が難しい近隣施設も、新記録に挑戦する、各施設でのランキングを決める等の方法で参加した。近隣施設への声掛けや情報共有等は、直営児童館が行った。

【実施場所】

- ・各施設

【実施スケジュール】

<予選> 令和3年7月5日（月）～8月20日（金）期間内で各施設自由に設定。

各児童館および参加を希望する近隣施設内で各自行った。

<決勝> 令和3年8月24日（火）・25日（水）・26日（木）各日午後2時～午後3時
各児童館および周辺地域より上位2名が決勝に参加。児童館ごとにタブレットで撮影。ウェブ会議システムを利用し、各館の様子を上映した。

【必要備品・物品】

- ・タブレット…練馬区全体で共有している備品を使用
- ・スクリーン、プロジェクター…各館の備品を使用
- ・メダル、賞状等…児童館運営の予算で購入



工夫点・留意点

- なるべく特別な物を使わず、各施設に日常的にある物で挑戦できる内容にした。
例) ペットボトルキャップつみ…ペットボトルキャップを何段積み重ねられるか
おはじつかみタイムアタック…30秒でおはじきを箸でつかみ何個移動できるか
トランプ赤黒あて…ランダムに選んだトランプ10枚の色を10枚中何枚当てられるか
- 特技や日頃の練習を生かせる遊びと、誰もが優勝のチャンスを得られる遊びの、どちらも取り入れながら種目を決めた。
- 児童の「やりたい」「つくりたい」という声を生かしながら、ポスター作成、横断幕作成、応援の旗作り、テーマソング録音等、種目に挑戦する以外にも様々な手法で児童が参加できるように工夫した。

事業の効果

• 同じ区内でも、児童が日頃利用している以外の児童館を意識する機会は少ない。今回、同じ遊びに取り組むことをきっかけに、様々な放課後の施設があること、それぞれで過ごしている同年代の児童がいることに児童が改めて気づき、関心を抱く様子が見られた。「どんな風に練習しているか見てくる。」と自転車で少し離れた児童館まで遊びに行き、その後も遊び場所として活動範囲を広げた高学年児童の姿もあった。また、決勝戦では他施設の児童が活躍する姿を見て「すごい!」「強い!」と拍手を送る等、直接会ったことが無い児童同士であっても、互いの技や努力をたたえ合う貴重な時間を持てた。

• 児童館外にある学童クラブやねりっこひろば等で取り組んでいる様子を、児童館職員が見に行った。各施設で児童のモチベーションや遊びの楽しさを広げる様々な工夫をされており、児童支援員としての学びにもつながった。



課題・今後の展開

• タブレットやウェブ会議システム等、これまでの児童館事業ではほとんど使ったことが無い機材を使用しての行事であった。そのため、機材面でのトラブルによる時間延長等が多少あった。今回の行事実施が各施設にとって良い経験となった。今後も、従来の活動方法にとらわれることなく、より良い事業展開を目指し、新しいシステムの学びを行う必要がある。

• 今後は、近隣施設との連携をより広げ、深めていきたい。児童同士の交流に加え、放課後児童支援員同士の交流や経験値向上にもつなげていきたい。